

つくばフェスティバル2008への 「移動地質標本館」出展

吉田 朋弘¹⁾

1. はじめに

2008年5月10日(土)・11日(日)に、茨城県つくば市のつくばセンター広場で開催されたつくばフェスティバル2008に「移動地質標本館」を出展しました。生憎の雨の中、人の出足は決して多いとは言えませんでした。メインが屋外の出展(地元物産やつくば市在住外国人が出展した各国の食べ物屋)にも関わらず、屋内(インフォメーションセンター、写真1・2)出展の当ブースにも多くの方が立ち寄って下さいました。正式にはカウントしていませんが、2日間で延べ500人ぐらの来場者があったと推定しています。

2. 床貼り展示「筑波研究学園都市及び周辺地域の環境地質図(25,000分の1)」

当ブースはメイン会場から外れており、場所が分かり難いことを考慮して、入口の足下(屋外)に250%に拡大した「筑波研究学園都市及び周辺地域の環境地質図(25,000分の1)」を野外のフロアに床貼りしま

した(写真3)。

行き来する人は、何の展示かと脚を止めて、傘を差したまま質問している姿が印象的でした。これに興味を持って下さった方には、下記の屋内展示を紹介し、これが良い客引きになったようです。

写真中央の指示棒のようなものはデッキブラシです。お客様がいないときには、スタッフがせっせと溜まった水を掻き出していました。ご苦労様でした。

3. ポスター展示と解説「つくばの地盤と筑波山の地質を知ろう!」

「筑波山やつくばの平野の地盤はどうなっているのでしょうか?」、「地盤からわかる大地の生い立ちについて考えましょう」をコンセプトに、「つくばの環境地質図・筑波山の地質・つくばセンター地区の石材」に関するポスター展示の解説を研究者が行いました(写真4)。

来場者は、「筑波山は火山じゃないの?」、「石はどのようにして出来るの?」、「つくば石・稲田石・真壁石



写真1 会場入り口。



写真2 会場内準備風景。

1) 産総研 地質標本館

キーワード: 5月10日, 地質の日, つくばフェスティバル2008, 移動地質標本館



写真3 つくばセンター広場での地質図の床貼り。



写真4 ポスター展示と研究者による解説。

の違いは何?」、「つくばでの地震の揺れ方は?」等々、多くの質問をされていました。対応した研究者もタジタジだったのではないのでしょうか。

ところで、読者の皆様も今後筑波山に登山にお越しになる際には、地質標本館の発行している「筑波山とその周辺ガイド(第1図)」や「筑波山地質見学ガイド(第2図)」を片手に地質も併せて見学されては如何でしょうか? 通常の登山とは違った筑波山の一面を垣間見ることが出来るかも知れません。ちなみに、2つのガイドとも当館で無料配布しておりますので、ご来館の際には是非係員にお申し出下さい。

4. 巡検「つくばセンター街の石を探そう!」

5月10日(土)のみの特別企画として、つくばセン

ー周辺で使用されているいろんな石を見て回る巡検「つくばセンター街の石を探そう!」が開催され、20人程度の参加者がありました。このイベントには、NHKの同行取材が行われました(写真5, 6)。

この巡検では見どころが多く参加者からの質問が殺到したため、当初30分程度の予定でしたが1時間弱の時間を要しました。解説にあたった研究者も参加者の熱心さに感心していました。



第1図 「筑波山とその周辺の地質ガイド」表紙。



第2図 「筑波山地質見学ガイド」表紙。



写真5 巡検「つくばセンター街の石を探そう!」.



写真7 砂で学ぼう・砂で遊ぼう!



写真6 つくばセンター広場での巡検風景.



写真8 簡易砂場で学ぶ子供達.

5. 体験コーナー「砂で学ぼう・砂で遊ぼう!」

このコーナーはイベントの定番で、子供達に自由に遊んでもらうのが趣旨です。今回も、「砂変幻」^{すなへんげ}、「エキジョッカー」^{エキジョッカー}、「オベリスクを立てよう」^{オベリスクを立てよう}、「ピラミッドの石門」^{ピラミッドの石門}、「簡易砂場(簡易砂変幻)」^{簡易砂場(簡易砂変幻)}を準備しました。我々の予想通り、お子さんには十分に楽しんでもらえたようです(写真7)。

特に簡易砂場では、なかなか帰ろうとしない子供に困惑した母親たちの姿が、多く見受けられました(写真8)。

6. 体験コーナー「飛び出す火山のペーパークラフトを作ろう!」

飛び出す絵本の火山版です(第3図)。1冊で14種類の飛び出す火山を作成することが出来ます。しかし、一人で全てを作成するのは困難なうえに、小さな



第3図 ペーパークラフト「飛び出す火山」表紙.



写真9 「飛び出す火山」作成中.



写真10 「飛び出す火山」作成中. じょうずに切れるかな.

子供には若干難しい工作箇所があります。そこで、我々の方で事前に糊面に両面テープを貼り付けておいて、参加者にはハサミで部品を切り出して台紙に簡単に貼り付けてもらうように工夫しました(写真9, 10)。

私の観察によると、小学校低～中学年ぐらいの子供は、熱心に作業を行います。しかし、幼稚園や保育園に通っている子供になると「子供が選んで親が作成する」パターンになります。一方、小学校高学年～中学生以上では、ペーパークラフトに全く興味を示さなかったり、作業途中で飽きてしまう(見切りを付けるのが早い)子供が多いように感じました。子供達の作成風景を客観的に観察してみるとそれぞれの性格がよく分かってきます。読者の皆様も、機会があったら是非お子様に体験させてみては如何でしょう？

7. 最後に

今回のイベント実施にあたり、酒井 彰さん、宮内 渉さん、兼子紗知さん、澤田結基さん、玉生志郎さん(地質標本館)、川畑 晶さん、百目鬼洋平さん(地質調査情報センター)、長 秋雄さん、井本由香利さん(地圏資源環境研究部門)、宮地良典さん、兼子尚知さん、小松原純子さん、井川敏恵さん、須藤 茂さん(地質情報研究部門)にご協力頂きました。ここに記して謝意を表します。また、来場者(家族で)としてお越しになりながら、展示解説の一部をお手伝いくださった皆様にも御礼を申し上げます。

YOSHIDA Tomohiro (2009) : Our presentations on "10th May, Geology Day": The Moving Geological Museum in Tsukuba festival 2008.

<受付：2008年10月6日>